

## SSH 探究発表会「あつまれ たんきゅうの森」開催

- ◇期日：令和6年10月30日(水)
- ◇場所：本校人文社会教室
- ◇発表者：実習・研修・大会など参加生徒代表
- ◇参加者：本校生徒・本校教職員・保護者など

文化祭では、令和6年前期に行った SSH 事業や探究活動などに参加した生徒が、それぞれの活動を報告するプレゼンテーションを行い、あわせて作成したポスターなどを掲示した。

1年生は7月の立山自然観察実習の報告を行った。天候に恵まれず、2班のうち1班だけしか実施できなかったそうだが、立山に関して深い知識を得たようだった。ブナ林やタテヤマスギ、積雪深、偏形樹や高度と気圧の関係などについての調査を行っていた。今回発表を行った班は、方形区内の植物の植物名や高さ、植被率、群度や被度などについて観察を行っていた。照量が群落に影響を与えており、高いほど枝葉を伸ばすことができるが、その分群度が低くなる可能性があるという。また、1日目の夜には天体観測を行い、立山の高山植物や大自然についての理解が深まった、と語っていた。



また、10月実施の1年探究科学科の県内企業施設研修の報告では、イタイタイ病資料館を訪れ、ジオラマや映像などを見て理解を深めたことが伝えられた。命の重さを認識すると同時に、同じことは二度と繰り返してはならないという感想を抱いたことが伝わってきた。さらに岩瀬の町と世界をつなぐ榎田酒造店の社長・榎田隆一郎さんにも貴重なお話を聞き、その熱量に圧倒されたそう。富山が世界に誇るスギノマシンでは、実際に金属板を切る様子を観察し、水で金属を切ることができる驚きを伝え、富山県内の企業が世界で戦っている様子を身近に感じて感銘を受けていた。

2年生は、8月に実施した富山大学薬学実習について報告した。合成実験や動物実験を行い、薬や有機化合物について詳しく学ぶことができたそう。薬は一步間違えば毒にもなりうるもので、その開発には長い時間がかかり、薬品の製造がどれほど大変なものなのかということ強く実感したということだ。実習内では実際に富山大学の院生の方と交流する機会があり、実際に研究をする方から直接お話を伺ったことで、強い刺激を得られたと話していた。



さらに8月、東京大学本郷キャンパスで行われた東京大学実習の発表では、ロボットプログラミングの工学系研究室、さらに高分子ポリマーコーティングの化学系研究室の2つの研究室で行った実習について報告があった。ロボットプログラミング班では、何度も試行錯誤を重ねながら、失敗の原因について考え、自己分析を行うことの難しさを実感した様子を動画も交えて伝えていた。高分子ポリマーコーティング班では、予想と真逆の結果が出たことで、その要因について考えて考察し、結論を出すまでの討論が興味深かったと話していた。最先端の工学系の科学技術に触れ、工学にも興味湧いてきたという。



3年生SS発展探究生物班の発表では、8月のSSH全国生徒研究発表会で行った「なめくジーニアス」と題した研究について、ナメクジの記憶と行動に関する研究概要・テーマ設定・研究活動などを紹介していた。全国大会で刺激を受け、研究の面白さを改めて実感するとともに、これからのモチベーションにもつながったそうだ。3年間の探究活動の集大成としての思いを我々後輩に伝えてくれた。



3月に行われたオーストラリア研修報告では、コフスハーバー到着からドリゴ国立公園、ドルフィン・マリン・コンサベーション・センター、ナショナル・マリン・サイエンスセンターなどを訪れ、その感想や考察について話していた。また、バディとの思い出やその内容に、参加者は心惹かれていた。

今回の文化祭で行われたどの発表にも生徒が多数訪れており、その内容や語り口に魅了されていた。会場では過去の研究集録や報告書等の展示や探究支援グッズの配布もあった。

今回プレゼンテーションはなかったが、昨年12月に行われた量子科学技術研究開発機構で行った実習で作成されたポスターも掲示された。立山自然観察実習のポスターとともに、本校1階エントランスホールに現在展示中である。